◎糸魚川市　歴史講座　『糸魚川町と北前船』

糸魚川市文化財保護審議会会長
吉　田　信　夫　令和8年8月22日

☆第二回「大野屋相沢家廻船業の歩み…江戸時代」　目　次

1　　本家　相沢玄伯家

2　　分家　大野屋相沢家

3　　廻船業の開始

4　　廻船業の頂点

5　　廻船業の廃業

6　　鬼伏村岩崎家の歩み

7　　大野屋と岩崎・山本・杉本家の関係図

8　　中古船購入・売却の記録

9　　新造船の記録

１０　歩持の記録

１１　米売り、買いの記録

１２　大野屋廻船業江戸時代のまとめ

※参考資料

◎糸魚川市　歴史講座

第二回　「大野屋相沢家廻船業の歩み…江戸時代」　　令和８年８月２２日

［キーワード］

①本家相沢玄伯家と分家「大野屋」

②廻船業の開始

③廻船業の安定・発展・頂点

④鬼伏村・船頭の岩崎家

⑤中古船の購入と新造船

⑥歩持（ぶもち）とは

⑦米売買の一例

⑧江戸時代のまとめ

［地図と写真］

①大野屋文書「持船変遷書上げ帳」

②四家の関係図

③北前船寄港地

④天保八年(1837)「仙台侯御目録　三つ組大盃」

⑤弘化元年(1844)「千石船絵馬　天津神社」

⑥北前船模型　新潟市　金比羅神社

⑦「北前船データブック　ＣＤ－ＲＯＭ」中村秋夫氏　2016

◎糸魚川市　歴史講座

テーマ　「糸魚川町と北前船」　　糸魚川市文化財保護審議会会長

吉　田　信　夫

第二回　令和８年８月２２日（土）13:30~15:40　フォッサマグナ・ミージアムホール

◎「大野屋相沢家廻船業の歩み…江戸時代」

1　本家　相沢玄伯家

相沢玄伯家は「糸魚川には名物ござる豆腐・玄伯・稚児の舞い」と歌われた糸魚川名物のひとつで、代々藩医を勤めた医者の家である。

初代玄伯は、栃木県宇都宮の生まれで、のちに福井に移り、寛永元年(1624)に松平中将光長公が高田藩主（石高２６万石）に移封の際随行し、当時高田藩領であった糸魚川に居住したのが始まりである。玄伯家では寛永元年を創家の年としている。この時四十歳であったという。藩主が移封の際家臣はもちろん、いろいろな職業の人々も随行することは通例であった。

なお、玄伯家の場合宇都宮・福井・糸魚川との関係は、家伝の薬により明らかになっている。

2　分家　大野屋相沢家

＊初代　仁左衛門

初代相沢玄伯家より分家…大町橋下琴平宮あたりに住む

天和三年（1683）検地帳・屋敷２畝１６歩、畑１畝２０歩所有

母は須沢の人、寺島村杉本茂右衛門の一族　田海の西蓮寺門徒

大野屋・杉本氏の家紋・菩提寺は同じ

なお、本家相沢玄伯家の菩提寺は直指院である。

＊三代　仁左衛門　［紺屋業開始］

宝歴八年(1758)に長男藤兵衛がある失態を起こす、その責任を負い一時大野村保坂家に寄遇する。五年後の宝歴十三年(1763)に大町に戻り、紺屋を始める。大野村に寄遇中に染め物の技術を習得したと思われる。町の人々は大野紺屋と呼び、分家相沢家は屋号を大野屋とする。

『県史資料・上越編』に文化三年(1806)「糸魚川藩領紺屋仲間取り決め」のなかに、

糸魚川大町源右衛門（五代目）の記載があり、仲間は八人・役銭二十八貫文とある。

文久三年(1863)の糸魚川町並図にも「廻船・紺屋・大野屋源兵衛（八代目）とあり、幕末まで紺屋業は続けていたようである。

3　廻船業の開始…持船の変遷と主な出来事

＊五代　源右衛門　［廻船業開始］

家は大町の橋下(はしした)から現在の大町２丁目４の５に移る

文化四年(1807)秋　大坂で２００石積５人乗中古船を購入

文化五年(1808)正月十一日「海上商売渡世開」船号　萬徳丸

船頭　鬼伏村四代岩崎藤九郎

（大野屋の記録）「五世源右衛門の時、廻船業のブームにのり廻船業を開始する」

（中村秋夫氏ﾃﾞｰﾀﾌﾞｯｸ）糸魚川町で天明・寛政・文化期(1781~1817）に開業の家は１５軒

☆取引回船問屋（船宿）

新　潟　高橋治良左衛門　石崎佐兵衛　磯辺惣右衛門　小川皆五郎(文化7年)

寺　泊　京屋四郎左衛門　米屋津右衛門

今　町　柴山作左衛門

兵　庫　北風荘右衛門

貝　塚　家中新次郎

尾　道　鰯屋徳右衛門

文化七年(1810)　佐渡小木港で４００石積７人乗船購入…宝山丸

文化十二年(1815)　糸魚川で９人乗り宝元丸新造、萬徳丸は大坂で売却、代金46両3分

文政十年(1827)　２３反帆千石積１２人乗宝元丸を新造、前の宝元丸は宝風丸と改名、都合**３艘所有。**

＊六代　源右衛門（皆吉）　［廻船業の安定と発展］

文政十年(1827)～天保13年(1842)　**４艘所有。**

［天保八年（1837）の記録］

奥羽飢饉に付、宝元丸・宝山丸・宝風丸は新潟より米穀を満載し、陸中寒沢港に至る。依って仙台侯より御紋のついた三ッ組の大盃を拝領する。

宝元丸…春新潟出帆、大坂で冬囲い、船頭・水主は越後に帰る12月29日

宝山丸…越後に帰船の時8月14日 南部尻矢（屋）崎で難破、乗組員は無事

宝風丸…７月新潟出帆、宝山丸難破を聞き寒沢港で越冬

※相沢家文書［天保八年五月(旧)御目録（一紙）覚　一　三ッ組大盃］文書所蔵あり

天保十二年(1841)　２代目宝風丸２２反帆８００石積を新造、嘉宝丸購入。

天保十三(1842)　３代宝元丸(23反)

初代宝生丸(18反)

２代宝風丸(22反)

初代嘉宝丸(21反)

＊七代　源右衛門（勇助・六代の弟）　天保十三年(1842)～安政元年（1854）

☆勇助の時代

文政五年(1822)　１９歳で修行のため宝元丸に乗船

十年(1827)　宝風丸船頭（直乗り）となる

十一年(1828)　尾道港　鰯屋と大紺屋の論船の記録　相沢勇助・新船と言う

鰯屋客船…宝風丸勇助・宝山丸林兵衛・宝元丸藤右衛門とある

☆天保十三年(1842)　大野屋七代源右衛門となる

天保十四年(1843)　新潟小川皆五郎所持６００石積幸得丸６３５両で購入

宝恵丸と改名し杉本嘉右衛門・相沢・山本・岩崎で共有経営

宝一丸１９反帆を鬼伏で新造。この年、６艘所有。

弘化元年(1844)　初代宝一丸を杉本・相沢・岩崎の三ッ仲とする

一の宮拝殿に船絵馬奉納…５艘が並ぶ豪壮なもの

嘉永二年(1849)　昨冬より寺町で造船の嘉宝丸代船完成、隣の造船小屋に落雷火災により類焼焼失

嘉永六年(1853)　初代随昌丸、新潟小川皆五郎の仲介　　相沢・山本両家持ち

宝風丸・随昌丸新潟囲船のところ船火災で類焼焼失(16艘被害)

７艘所有⇨２艘焼失

※六代・七代（兄弟）善提寺西蓮寺の建築…天保四年の設計図

嘉永年代(1848~53）に完成

4　大野屋廻船業の頂点

＊八代　源兵衛　　安政元年（1854）～明治13年（1880）

（長治郎・明治以降皆吉郎・鬼伏五代岩崎藤右衛門２男・４歳で相沢家養子となる

妻は七代源右衛門の娘キヨ）

万延元年(1860)　**７艘所有**

			（船　頭）	（新潟の契約廻船問屋）
４代宝元丸	２３～２４反		吉太郎	高橋治良左衛門
３代宝風丸	２２反		治四郎	小川皆五郎
２代嘉宝丸	２２反		喜治郎	高橋治良左衛門
初代宝一丸	１９反	岩崎・相沢両家持	藤治郎	
２代随升丸	２１反	山本・相沢両家持（山本名前）	儀太郎	小川皆五郎
３代宝三丸	２３反	杉本・相沢・岩崎三名持	太三郎	
２代宝生丸	２０反		弥市郎	

他に２代宝二丸　１９反　万延元年(1860)新潟で新造・明治11年売却663円　18年乗る

宝重丸　　万延元年(1860)新造か？明治18年売却458円18銭　25年乗る

※『西頸城郡誌』幕末頃の糸魚川町の船持ち・１０軒に相沢源兵衛　９艘とある

明治１２年(1879)　**８代源兵衛持船**

①宝重丸　　①～④の船は相沢・山本合資(1/2) による経営

②３代宝生丸

③３代随升丸　→１７年４代新造１９３５円

④随方丸

⑤５代宝元丸　　相沢手船（大野屋の持船）

⑥４代宝三丸　　宝三丸社中による経営

◎明治１３年(1880)　在金額最高　３０，９５０円９銭５厘

5　廻船業の廃業

＊九代　充太郎　（七代源右衛門実子）

八代源兵衛の後継者となるが、明治９年(1876)死去

明治４年(1871)　薬種業開業

９年(1876)　７月没３２歳

＊十代　キヨ　（八代源兵衛の妻、九代充太郎の姉）明治１３年～２４年（隠居）

九代・八代死後家督を継ぐ、廻船業経営

明治１７年(1884)　４代随升丸新造１９３５円

１８年(1885)　３代宝生丸売却１７４０円

初代宝重丸売却４５８円・道具代４４．５円

１９年(1886)　４代宝三丸売却９７０円…社中で残金１２３７円を精算する

明治２０年２月(1887)　廻船業廃業（明治１９年の営業をもって終了する）

残った船…５代宝元丸・随方丸・４代随升丸の３艘

＊十一代　充太郎　（９代充太郎の娘加寿子の婿養子・池原恒三郎３男）

明治２４年～昭和４年(1929)　相沢家当主

明治２３年　薬局開業（薬剤師資格）（糸魚川銀行・糸魚川信用組合設立人）

４４年　糸魚川大火で全焼

大正１２年～昭和４年　町長

6　**鬼伏村　岩崎藤右衛門家の歩み**　（代々六郎左衛門襲名）

◎大野屋廻船業開始時からの船頭の家

天和三年（1683）の検地帳～　鬼伏村…田畑耕地少なく海上船乗出稼ぎの土地、
家数百軒　本村・川西・崩崎合わせて一ケ村

＊四代　藤九郎　　宝歴十一年(1761)生～文政五年(1822)９月５日没６２歳
大野屋五代源右衛門の時、萬徳丸（宝元丸）・宝山丸の船頭となる。

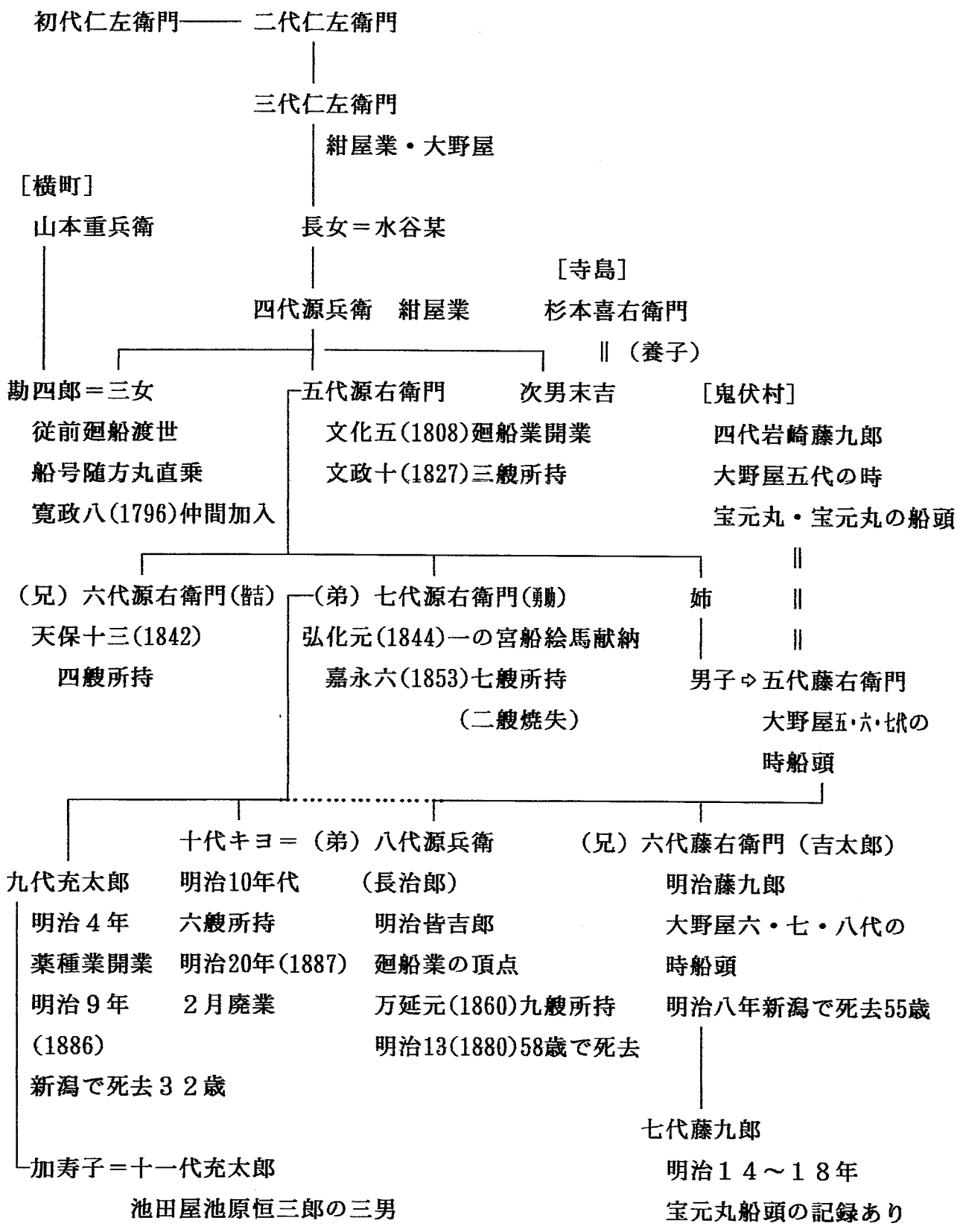
＊五代　**藤右衛門**　天明七年(1787)生～弘化三年(1846)２月16日没６０歳
母は大野屋６代源右衛門の姉、理由あって生後すぐに岩崎家養子。
大野屋手船宝元丸の船頭となる。のち船頭は実子吉太郎（６代藤右衛門）
弘化元年(1844)宝一丸を相沢・杉本・岩崎の三ッ仲とする（共同経営1/3 所有）
大野屋五・六・七代に船頭として活躍

＊六代　藤右衛門（吉太郎）明治以降は藤九郎と改名
文政四年(1821)生～明治８年４月２７日日新潟で死去５５歳
天保十年(1839)　　１９歳で宝生丸船頭、
天保十二年(1841)　父藤右衛門発病の為宝元丸の船頭代となる。
宝生丸船頭は鬼伏村喜次郎。
※大野屋六・七・八代に船頭として活躍

☆**長治郎（六代吉太郎の弟）**文政六年(1823)生
４歳で大野屋七代源右衛門の養子⇔大野屋八代源兵衛となる。

＊七代　藤九郎　明治１４～１８年宝元丸の船頭の記録あり

7　大野屋相沢家と岩崎家・山本家・杉本家の関係図



※幕末・明治期の山本勘四郎三男・健三郎と九代相沢充太郎の妹が婚姻している

8　大野屋中古船購入・売却の記録

＊五代源右衛門の時

年　　月	船　　名	購入先　　価格	備　　考
①文化四年(1807)秋	万徳丸200石5人	大坂安導寺町菱屋太兵衛	大坂船屋弥兵衛仲介
八年正月11日	改名宝元丸		
11年(1814)秋	宝元丸　大坂で売却…代金46両3分・銀6匁		
②文化七年(1807)秋	宝山丸400石7人	佐州小木港泉屋瀬兵衛世話	
文政二年(1819)秋	大坂で売却		

＊六代源右衛門の時

③天保九年(1838)暮	宝生丸400石18反	新潟大西某所持	
安政三年(1856)冬	新潟に囲　箱館井筒屋岩治郎に３６０両で売却		
④天保11年(1840)暮	嘉宝丸	山本勘四郎所持分	
嘉永二年(1849)	売却		

＊七代源右衛門の時

⑤天保13年(1842)冬	幸得丸600石21反	新潟小川皆五郎所持船	半分　小川
	改名宝恵丸	６３５両	ニッ仲トスル　杉本・(岩崎・山本)・相沢
弘化三年(1846)	売却…仲間ト示談ノ上大坂で譲船		
⑥嘉永四年(1851)春	2代宝恵丸19反	鬼舞村佐藤彦右衛門	
	12年乗り丸	３２０両	
安政元年(1854)秋	売却…大坂に囲譲船致す		
⑦嘉永五年(1852)9月	随昌丸	当所池原仁左衛門ヨリ	新潟において小川皆五郎仲介
嘉永六年10月12日	随昌丸…新潟御祭堀船火事ニヨリ類焼		随昌丸と2代宝風丸の２艘

9　大野屋新造船の記録

＊五代源右衛門の時

年　　月	船　　名	場所　　船大工棟梁	船頭(支配人)	備　　考
①文化11年(1814)	2代宝元丸　9人	寺町浜	藤右衛門	文政10年
12年正月11日	台卸			改名宝風丸
②文政二年(1819)	2代宝三丸　9人	寺町浜	藤九郎	
三年	台卸			
③文政九年(1826)秋	3代宝元丸23反千石12人		大町	
10年　　4月	台卸		小川林兵衛	

＊六代源右衛門の時

④天保11年(1840)秋	2代宝風丸22反800石	横町浜　今町	
		加藤彦八	

＊七代源右衛門の時

⑤天保14年(1843) 15年	初代宝一丸19反 台卸	鬼伏	鬼伏岩崎藤四郎長男 長太郎	大野屋名前 三ツ仲 杉本・岩崎・相沢
⑥嘉永元年(1848) 二年正月五日	2代嘉宝丸 落雷にて焼失	寺町浜 今町 加藤彦八	長治郎(後の8代源兵衛) 秋より伊太郎	
⑦嘉永二年(1849)秋	2代嘉宝丸22反	押上浜 彦八長男 彦右衛門 吉左衛門	伊太郎	
⑧嘉永三年(1850) 7月17日	4代宝元丸23~24反 台卸	押上浜 加藤 吉左衛門	長治郎・藤四郎 6月ヨリ代 吉太郎	
●明治元年(1868)9月28日夜 松前から登り○部灘にて終破				

＊八代源兵衛の時

⑨安政三年(1856)2月 4月	3代宝風丸22反 台卸 5月出帆	押上浜 加藤 吉左衛門	治四郎	
●明治４年(1871)11月から松前コモロ出帆後、行方不明				
●明治６年(1873)１月１４日ヲシテ暇善致ス（捜索中止する）				
⑩安政四年(1857)秋 五年 4月	3代宝風丸22反 乗卸	押上浜	太三郎	大野屋名前 三ツ仲 杉本・岩崎・相沢
⑪安政四年(1857)8月	2代随升丸21反	押上浜	儀太郎	山本名前 二仲 山本・相沢
●明治元年(1868)8月 アッケシで難破				
⑫安政五年(1858)秋 六年 4月	２代宝生丸20反 乗出		弥次郎 代亀次郎・甚五郎	
⑬万延元年(1860) ☆明治11年(1878)	初代宝二丸19反 売却…６６３円	新潟	岩崎善助倅 安次郎	五ツ仲 相沢・喜次郎・太三郎 ・治四郎・岩崎
⑭明治元年(1868)	2代宝一丸	新潟	藤治郎	
●明治８年(1875)9月 ヲクシリ島で難破、乗組員は救助される				
⑮明治元年(1868)	3代随升丸	新潟	甚五郎	
※明治元年8月 アッケシで難破した⑪2代随升丸の代わりの船				
⑯万延元年(1860)	宝重丸		与三郎(明治16年)	
☆明治18年(1885)25年乗船で売却…４５８円１８銭・明治18年 道具代…４４円４９銭				

１０　歩持（船の共同所有・共同経営）の記録

天保十五年(弘化元)(1837)	宝恵丸（古）21反	三ツ仲　相沢・（山本・岩崎）・杉本
弘化元年(1837)	初代宝一丸　19反	三ツ仲　相沢・岩崎・杉本
嘉永五年(1852)	随昌丸　21反	二人仲　相沢・山本
安政五年(1858)	３代宝一丸　23反	三人仲　相沢・岩崎・山本
安政五年(1858)	２代随昌丸　21反	二人仲　相沢・山本
万延元年(1860)	初代宝二丸　19反	五ツ仲　相沢・喜次郎・太三郎・治四郎・岩崎
明治６年(1873)	４代宝三丸　21反	仲　相沢1/2 岩崎1/4 ・喜次郎・太三郎1/4

※明治11年～19年(1879~87) 大野屋６艘所持

４艘　宝生丸・宝重丸・随升丸・随方丸は相沢・山本の合資（船の共同所有）

１艘　宝三丸は社中で所持（会社組織）相沢・岩崎・太三郎・治四郎・勘次郎

１艘　宝元丸は大野屋の手船（持船）

１１　米売り、買いの記録

◎安政二年(1855)　八代源兵衛の初めの時（船４艘所持）の記録

[作秋(安政元年)兵庫北風荘右衛門土蔵に揚置米致し、売方支配喜治郎越年、卯二月(安政二年)入テ還ル、為代正月治四郎出立、右米不残売、四月帰ル五月入ル]

（解説）　安政元年の秋、兵庫の廻船問屋北風方に米売りを依頼したが、売れず北風方の土蔵に保管することになり、大野屋の船頭喜治郎が責任者として北風方に残った。年内には売れず、翌年責任者は船頭治四郎と交代し、米を全て売払い五月に帰国できた。

◎文政九年(1826)十二月高田藩蔵米払い下げ記録　『上越市史』

蔵米入札者１６人中…１１人が今町廻船問屋

天領郷蔵米（幕府領）と蔵米（高田藩米）の年貢米を購入

年貢米　→廻米（大坂・江戸へ）

→今町で払い下げ⇦今町廻船問屋が購入⇦北前船主からの注文による

[入札した１１人の今町廻船問屋]

扇屋藤右衛門	７００俵	熊田屋又兵衛	１０００俵
川崎　彦八	１０００俵	越前屋茂左衛門	１０００俵(福永家)
柴山作左衛門	１０００俵(大野屋取引問屋)	玉屋又右衛門	５００俵
苫屋弥左衛門	５００俵	和泉屋津右衛門	１０００俵
信濃屋市右衛門	６００俵	勝島屋佐五右衛門	１０００俵
石塚屋六郎右衛門	１０００俵(伊藤家取引問屋)		

◎今町廻船問屋は定期的に湊での商品相場を廻船業者に報告している

（例）「安政三年(1856)柴山作左衛門・昨年末売り留相場報告」

報告された１６品目…高田蔵米・天領米・町米・大豆・小豆・荏粕・竹原塩・繰綿

砂糖・蝋・鰹節・鯨・鮪・鉄・ずく（銑鉄）・水油

［参考］主な湊での積み荷

箱館・江差・松前	鰊魚肥・身欠鰊・数の子・昆布
酒田	米
輪島	炭
小浜・敦賀	茶・筵・縄類
美保関（島根半島先端）	鉄
下関	塩・紙・蝋・鰹節
三田尻・尾道	塩・木綿
室津・撫養(むや・鳴島・鳴門)	塩
兵庫・大坂・堺	木綿・酒・砂糖

１２　大野屋廻船業江戸時代のまとめ

①営業期間　文化五年(1808)～明治１９年(1886)の約８０年間

②開業前に義兄弟の山本勘四郎が随方丸で廻船業を開業し、経験やノウハウを蓄積している（大野屋記録）「従前廻船渡世船号随方丸直乗、寛政八(1796)年仲間加入」

『西頸城郡誌』「尤も従来より廻船渡世をなし、手代山本勘四郎なるもの随方丸に乗じ営業をなせしが、寛政八年(1796)より独立して同業の仲間入を成せしと云」

③兄弟や近い親戚（山本家・岩崎家・杉本家など）との協力体制

④歩持による船の共同所有・経営を行う…目的は危険の分散

海難・災害・商売上の大損害を分担し、船主の身の安全を保持する

（例）二人仲（半分持）…船購入・中荷金・利益も半分つつ負担する

親戚や商人同士が出資し合う形態（遠距離もあり…松前と兵庫・新潟と金沢など）

⑤江戸時代には、地元で船を新造している（寺町浜・押上浜など）

⑥残っている史料では、海難事故が少ない

⑦船頭として船に乗った当主は、７代源右衛門（勇助）と８代源兵衛（長治郎）の二人

［資料］

「医業三百年・薬業百年」（相沢悦二氏・昭和45･12･7）

「（仮）大野屋持船（廻船）変遷書上げ帳」（相沢家文書）※平成２８年大火で焼失

「大野屋相沢家家系図」「岩崎家図」　（相沢家文書）※平成２８年大火で焼失

『県史資料・上越編』　『北前船データブック』中村秋夫氏・監修原　直史氏2016

『糸魚川市史４・近世３』

「相沢家文書　天保八年五月　御目録　覚」

『上越市史・通史編４・近世二』

弘化二年(1845)「相沢家奉納船絵馬」天津神社蔵の写真

「大野屋廻船業の歩み・江戸時代Ⅰ（吉田信夫）　令和5年4月14日